

企画総務委員会 送付 2 - 9

神保町ビル別館（旧相互無尽会社ビルディング）保存・活用に関する陳情

受付年月日 令和 2 年 8 月 2 7 日

陳 情 者 提出者 2 名

陳情書

2020年8月27日

千代田区議会 議長 小林たかや様

神保町ビル別館（旧相互無尽会社ビルディング）保存・活用に関する陳情

この度、千代田区神田神保町 2-19 小学館不動産株式会社様所有 「神保町ビル別館」（旧相互無尽会社ビルディング）の解体工事のお知らせ看板が掲示され、9月7日より解体工事に入るということを知りました。当該建物は1930（昭和5）年に、「相互無尽会社」のビルとして、安藤組（現安藤ハザマ）の設計施工により建築されました。（日本建築学会編「近代建築総覧」による。）

東京は1923（大正12）年の関東大震災により焦土と化しましたが、東京市の帝都復興計画により不燃化を目指した都市として見事に生まれ変わりました。当該建物もまさに同時期の鉄筋コンクリート造の耐震耐火建築として建築された復興建築のひとつです。地上4階の上に塔屋があり、外壁は当時流行ったスクラッチタイルで仕上げられています。縦長の窓が規則正しく並んだ端正な立面は金融機関という堅実さが表現されていますが、1階のアーチ窓は細いテラコッタで縁取られ、さくら通り側の窓のテラゾー格子の意匠は竣工当時パラペットに載っていたスペイン瓦と共に異国情緒があふれ、この建物の親しみやすさを演出しています。（現在塔屋の一部にスペイン瓦が残っています。）神田一橋中通りとさくら通りの目につきやすい角地に建ち、ランドマークとして住民に親しまれ、長い間さくら通りのシンボリックな存在でした。かつてこの前には東洋キネマが建ち、賑わいのある一角でもありました。建築後90年経っていますが、竣工当時の姿とほとんど変わらないことも驚きに値します。こうして神保町の地域にとってはなくてはならない風景の一部として私たちの記憶に刻まれて参りました。

その建物が解体されると聞いて、かつてこの町で学び、暮らした者として居ても立っても居られない思いがいたしました。聞くところによりますと、建物の上層部は傷みが激しいということですが、この時期のコンクリート建築は強い強度を持っている例が少なくありません。様々な工法でコンクリートを補修して、長く使い続ける研究も進んでいます。新築の建物にはない魅力がこの建物には備わっています。

文化・建築史的価値が極めて高いこの民間の建築を地域の宝として位置づけ、存続させ活用するために、千代田区に協力して頂くことができないでしょうか。皆で知恵を絞って、所有者にも納得して頂く最善の方法を行政と共に区議会でも議論して頂くことを望みます。



写真資料



2020年8月25日撮影



竣工当時の写真
インターネットより転載